

雪女を基にした話

実 (みのる)

茂 (しげる)

幸子 (ゆきこ)

客入れ

舞台上、応接セット (椅子が2脚)

照明 暗転

音楽

照明、ゆつくりと明るくなる

舞台上、下手側の椅子に、実が静かに座っている

音楽 2'00" 位で立ち上がり退場

音楽 大きくなる

音楽終了

実、茂、明るく登場

茂 いや、久しぶりだな、この家来るの。

実 お前、元気か。

茂 いやいや、年だよ。

肩上がんねえし。

膝痛いし。

ヤバいね。

2人、当たり前のように椅子に座る (下手側、実。上手側、茂)

実 お前、腹出たな。

茂 年相応だよ。

お前もたる。

実 まあな。

茂 でも、急にどうしたんだよ。

家で飲もうつて。

まあ、嬉しかったけど。

実 そうな。

茂 あ、そうだ。

実 お前んとこも、みんな、もう社会人くらいか。

茂 うん。

茂 今年の春で、全員、巣立っていったよ。

実 おお、良かった。

茂 まあな。

茂 まあ、後は、自分で生きていけるだろ。

茂 そっか、そっか。

茂 早いな。

茂 うちは、まだもう少しかかるからな。

茂 ぼちぼち、スネが無くなるよ。

実 腹は出たんだけだな。

茂 腹は出ても、スネはすかすかだよ。

実 後少し、頑張れ。

茂 まあな。

茂 あ、それであれか。

実 みんな家からいなくなったから、寂しくなって連絡くれたのか。

茂 そんなんじゃねえよ。

茂 また。

茂 お父さん、独りになって、寂しい。

茂 お父さんは、これから何を生きがいに生きていけば良いの。

茂 息子よく。戻って来ておくれ。

茂 そんな感じか。

実 そんなことないつて。

茂 まあ、でも、俺もそうなるんだろうな。

茂 そんなんじゃないつて。

茂 良いつて、良いつて。

茂 わかつてるから。

実 本当、違うつて。

茂 まあ、でも、お前は、本当によく頑張ったな。

茂 奥さんいなくなつて、男手一つで、本当頑張ったよ。

茂 本当一生懸命やつたもんな。

茂 自分なんか、家のことはかみさんにまかせつきりみたいなもんだからな。

茂 頭が下がるよ。

実 ∴

茂 ようやく自分の時間が取れるようになった感じだな。

実 ∴まあな。

茂 お疲れさまです。

実 ありがと。

茂 なんか趣味探さないとな。
実 ：
茂 ゴルフなんかやってみる。
面白いぞ。
実 ：
茂 あ、そうか。
お前は、山登るのか。
昔、しよつちゆう行ってたもんな。
俺には、さつぱりわかんねえけど。
山登って、何が楽しいんだ。
まあ、でも、身体は動かさないとな。
家で、ボサくつとしてると、ボケるぞ。
また若いのにつて。
実 うん。
：
それで、なんだけとぞ。
茂 ：
実 ：
茂 どした。
実 うん。
まあ、驚くとは思うんだけとぞ。
茂 何が。
実 うん。
茂 ：
実 ：
茂 なんだよ。
実 うん。
驚いたうえで、更に、頼みもあるんだよ。
茂 なんだよ。
わかんねえよ。
頼みもなにも、とりあえず言えよ。
実 うん。
茂 ：
実 この前、病院行ったんだよ。
茂 うん。
実 で、分かったんだけど、
茂 ：
実 数か月以内に、：
茂 ：
実 俺は死ぬ。

雪子に、もう一回会いたい。

茂
子供たち置いて、出ていったんだろ、今更会ってどうするんだよ。

実
前、言ったたる。

茂
雪子。雪女だったつて。

実
いやいやいや、言っただけど、冗談たる。

実
冗談なんかじゃない。

本当なんだ。

信じてもらえないかもしれないけど、本当なんだ。

::

雪子は、子どもたちを置いて、出ていったんじゃない。

そういう約束だったんだ。

::

茂
若い時の話だよ。冬山で、雪子にあつたんだ。

実
急に天気が悪くなって、吹雪になった。

周囲が何も見えなくなって、俺は、どうすることもできなくなった。

死ぬのかなつて。

そう思ったよ。

寒くて、意識が無くなりそうになった時、

真っ白な服を着た女が、俺の目の前に立ってた。

冬山じゃあり得ない位の、薄着だった。

意識が無くなりそうな時に、その女は言ったんだ。

この山を侵す人間が増えた。だから私はそんな人間を殺す。

お前も殺してやろうと思つたが、お前は純粋で、心が美しいから、助けてやることにした。

だが、お前は今夜のことを誰にも言っってはいけない。

誰かに言ったら命はないと思え。

俺は少しの間気を失つて、気づいた時は、天気はすっかり良くなって、無事下山するこ
とができた。

俺も信じられなかつたよ。

何が起つたのか。

それから1年後だ。

雪子と出会つたのは。

俺たちは、何かに導かれてるかのよりに、すぐに結婚して、幸せな日々を送つた。

幸せだった。

子どもも産まれて、本当に幸せだった。

ある日、仕事から帰つて、雪子と二人で飲んでたんだ。

酔つて、ふと思ひ出したんだ。あの冬山のことを。

そして、雪子に言つたんだ。

::

今も覚えてる。

その時の雪子の言葉を。

あの時のことを誰かに言ったら殺すと、私はお前に言った。
だが、今寝ている子供のことを思えば、どうしてお前を殺すことができる。
だから、せめて子供達を立派に育ててちょうだい。
この先、お前が子供達を悲しませるようなことがあれば、その時こそ、私はお前を殺しに
来るから。

そう言つて、雪子は目の前から消えたんだ。

茂

::

実

雪子が出ていったんじゃない。

俺が約束を破ったから、いられなくなつたんだ。

茂

::

信じられない。

実

でも、事実だ。

茂

だからお前、必死で

実

違ふよ。

俺と雪子の子どもだから。

俺が殺されるとかじゃない。

雪子のことを、いまでも愛してる。

だから、そんな雪子と、俺との子どもだから、幸せになつて欲しい。

それだけだよ。

茂

::

実

子どもたちが自立して、俺の役目は終わった。

なんだつたら、雪子に殺しに来て欲しいつて思ったよ。

もう一度、雪子に会えるんだから。

::

でも、雪子は俺を殺しに来てくれなかった。

俺は、病気に蝕まれて、弱つて、独りで死んでいく。

茂

::

実

それが辛い。

::

茂

もう一度、雪子に会いたい。

どうすれば良い。

実

雪子さんを探せばいいのか。

どうやつて。

茂

お前が、雪子さんと会つた山に行つて探す。

実

聞いて欲しかったんだと思う。

話してて分かつた。

誰かに聞いて欲しかったんだ。

そして、褒めて欲しかったんだ。「頑張つたな。」つて。

最初は、探してくれつて思つたけど、違ふな。

俺は必死で、子ども達を育てた。

雪子も、本当は、一緒に育てていきたかったらう子どもたちを、何とか俺が、育ててやる
ことができた。

褒めて欲しかったんだと思う。

茂

∴

音楽

実

ありがとら。

照明、ゆつくりと暗くなる

茂

∴

実

飲むか。

茂

飲んで良いのか。

実

もはや変わんねえよ。

酒取ってくる。

実、退場

茂

∴

音楽、大きくなる

暗転

音楽、フェイドアウト

照明、ゆつくりと

舞台上、下手側の椅子に茂が座っている

幸子、登場

茂

こつちこつち。

幸子、茂に気づき、席へ

幸子

先輩、お久しぶりです。

茂

急にごめんね。

幸子

いえいえ。

茂

座って、座って。

幸子

失礼します。

幸子、椅子に座る

茂 あ、コーヒーで良い。

幸子 はい。

茂 ケーキ付ける。

幸子 あ、はい。

茂 オッケー。

すみません。

ケーキセット。コーヒーで。

幸子 :

茂 :

幸子 えくと、何か、急いでます。

茂 急いではない。

幸子 どうしたんですか。

変な感じですけど。

茂 うん。

これから幸子ちゃんに話す話を、正直、どうやって話して良いか、まだ自分でもまともに
て無くて、動揺してるって言えば良いのかな。

幸子 はあ。

茂 とりあえず、急に呼び出してごめんね。

幸子 大丈夫です。

久々だったんで、驚きましたけど。

茂 まあ、そうだね。

部署変わっちゃったしね。

幸子 そうですね。

茂 どう？

新しい部署は。

幸子 結構忙しいですね。

茂 そうなんだ。

幸子 面白いですけどね。

茂 それは何よりだよ。

うちは、もうあれだよ。

新しく配属された子が、全然使えない。

参ってるよ。

幸子 そうなんですか。

茂 そうなんだよ。

戻って来ない。

うちに。

幸子 それ、私決められることじゃないんで。

茂 そりやそらだ。

幸子 今日、仕事の話なんですか。

茂 違う違う。

それだったら、会社で話しすれば良かったから。

幸子 はあ。

茂 俺の完全にプライベート。

うん。

幸子 はあ。

茂 :

幸子 :

茂 :

幸子 で、何なんですか。

茂 うん。

そっだよ。

うん。

いや、ちよつとお願いがあつて。

幸子 私にできることですか。

茂 もちろん。

じゃなかったら、頼まないし。

幸子 なんですか。

茂 :

幸子ちゃんはさ、妖怪とかつて信じる。

幸子 信じます。

茂 あ、信じるんだ。

幸子 信じますよ。

いてもおかしくないと思いませんか。

生きてて、分からないことの方が多しじゃないですか。

その分からない領域に、妖怪とか、そういう類のものがあつたつて、おかしくないですよ

ね。

茂 まあ。

幸子 で、それがどうしたんですか。

茂 うん。

まあ、それだったら、話が早いのかな。

実はさ、：友達に死にそうなんだよ。

幸子 友達が妖怪なんですか。

茂 そうじゃないな。

もう少し、俺の話聞こうか。

幸子 すみません。

流れ的にそうなのかなつて。

茂 違う違う。

良くないよ。

思い込みで、思考を固めていくの。

幸子 はい。

茂 ま、俺の話す順番も、的を得てないのかもしれないけど。
とにかく、俺の友達、あ、人間の友達が、死にそうなんだよ。
幼馴染みでさ。年も一緒に。親友って位の友達。
もう、そんなに長くないんだよ。
最近、ちよいちよい会ってんだけど、弱ってきてる。

幸子 ∴

ショックですね。

茂 うん。ショックだ。
そう、ショックを受けてるんだよ。
何もしてやれないし。
すごい頑張ってきた奴だし、これから、少し時間が出来て、また昔みたいに飲んだり、一緒に遊んだりできるって時に、ショックを受けてる。

幸子 ∴

茂 何かしてあげたいと思って。
考えたんだ。

幸子 はい。
私にできることだったら、手伝いますけど。

茂 ∴

幸子 ∴

茂 幸子ちゃんさ、∴雪女やつてくれないかな。

幸子 ∴

茂 は。
お願い。
雪女やつてくれ。

幸子 ちよつと、ちよつと待ってください。

茂 ∴

幸子 ちよつと話が見えないんですけど。

茂 何となく、似てる気がするんだよ。
色も白いし。

幸子 誰にですか。

茂 雪女の雪子さん。
そう、名前も一緒だし。
頼むよ。
ね。

幸子 ちよつと待ってください。
あの、思考を固める間もなく、意味不明な感じで進んでるので、ちよつと待ってください。

茂 ああ、ごめん。

幸子 ∴

えと、あの、まず、雪女の雪子さんって、誰ですか。

茂 俺の、死にそうな友達の奥さん。
元奥さんって言えば良いのかな。

幸子 今はいないんですか。

茂 いない。

幸子 その人が、私と似てるんですか。

茂 そんな気がする。
俺も何回かしか会ったことないから。

幸子 で、私にその人に成りすましますか。

茂 そう、話が早いね。

幸子 成りすまして、どうするんですか。

茂 話して欲しいんだよ。

幸子 え。

茂 会いたがってるんだよ。
雪子さんに。
だから俺、会わせてやりたいんだよ。

幸子 え、でも私、その雪女の雪子さんじゃありませんよ。

茂 そうなだけで。

幸子 後、名前も一緒って言っていましたけど、察するに、その方は、空から降る、雪に子どもの
子で、雪子ですよ。

茂 そう。

幸子 私、幸子ですけど、幸せな子で、幸子ですよ。
違うじゃないですか。

茂 読み方は一緒だから。

幸子 いやいやいや。

茂 ね。頼むよ。
明日の15時に、白い服で、ここで待ち合わせしよう。
ちよつと待つてください。

：

いや、駄目ですつて。

茂 何で、用事ある。

幸子 そういうことじゃなくて。

茂 じゃあ、良いじゃん。
頼むよ。

幸子 違います、違います。
ちよつと待つてください。

茂 ：

幸子 それは、駄目じゃないですか。

茂 何で。

幸子 ばれるでしょ。

茂 遠目から、ちらっと見せるだけで良いんだよ。
だから話さなくても良いし。
白い服着て、幸子ちゃんが、部屋の隅に、少しの間、立っただけで良いんだよ。

幸子

ええ。

茂

頼むよ。

なんかしてやりたいんだよ。

本当に、そいつ頑張ってきたんだよ。

で、奥さんに会いたがってるんだよ。

どっちにしる長くないし、嘘だつて良いんだよ。

あいつに、死ぬ前に少しでも、後悔残させたくないんだよ。

頼むよ。

幸子

::

茂

お願いします。

幸子

::

良いのかな。

茂

分からない。

でも、俺は、良いと思ってる。

幸子

::

茂

会わせてやりたいんだ。

たとえ、嘘でも。

幸子

::

いまいち、気が引けるんですけど。

茂

責任は、俺が持つから。

幸子

::

茂

頼む。

幸子

::

わかりました。

茂

ありがとう。

音楽

茂

本当ありがとう。

幸子

いや。

茂

助かるよ。

幸子

でも、あの、もう少し詳しく聞いて良いですか。

茂

もちろん、もちろん。

照明、多少早めに暗転

茂

俺も、そいつから聞いた情報しかないから、そのまま伝えるけど、

幸子 はい。

音楽、大きくなる

照明、暗転

音楽、フェイドアウト

照明、ゆつくりと明るくなる

実、茂、登場

実 なんかに悪いな。

ちよいちよい来てもらって。

なんか、気使わせちゃったな。

茂 良い、良い。

俺の方こそ、しよちちゆう来て、邪魔になってる感じだよな。

実 そんなことないよ。

嬉しいよ。

実が、下手側の椅子に、力無く座る

茂 大丈夫か。

実 大丈夫。

昨日、皆来てくれたよ。

皆、元気そうだった。

一番下は、やっぱり慣れない仕事で大変そうだったけど。

とりあえず頑張ってるみたいだ。

茂 そうか。

良かったじゃん。

実 ああ。

茂 ::

実 ::

茂 ちゃんと食ってるか。

実 少しは食ってる。

茂 そっか。

実 大丈夫。

茂 ::

実 ::

なんだよ。

何かあるのか。

茂 え、何で。

実 なんか変だぞ。
茂 そんなことねえよ。
実 変だつて。
茂 そんなことないつて。
実 ::
茂 ::
あのさ、
実 ::
何。
茂 :: いや。
実 なんだよ。
茂 ::
実 何。
茂 ::
雪子さん、見つけた。
実 ::
茂 ずっと探してたんだ。
お前から聞いてから。
でさ、見つかったんだよ。
実 ::
茂 ::
実 そっか。
茂 うん。
実 ありがとう。
茂 いや。
で、今日、来てもらってるんだけど …会うか。
実 :: 会いたいな。
茂 そっか。わかった。今連れてくる。
実 ::

茂、退場

茂、幸子を連れて登場

幸子、できるだけ隅に立つ

茂 ::
実 ::
幸子 ::
実 久しぶり。
幸子 久しぶり。
実 会いたかった。

幸子 うん。
実 雪子。
幸子 何。
実 ごめんな。
幸子 ∴
実 約束守れなくて、ごめんな。
幸子 ∴
実 でもさ、子どもたちは、しつかり育てたよ。
お前に言われた通りにさ、悲しませないで、しつかり愛して、しつかり育てたよ。
幸子 ありがとう。
実 これだけは信じて欲しいんだ。
殺されなくなかったからじゃない。
俺とお前の子どもだから、
幸子 分かってる。
分かってるから。
実 ∴
幸子 ありがとう。
私見てたよ。
あなたがしつかり育ててくれたこと。
ごめんね。
一緒にいれなくて。
実 ∴
幸子 そういう決まりなの。
本来なら、あの冬山で、あなたを殺さなければいけなかった。
でも、できなかった。
できなかっただけじゃなくて、私は私の力を無くした。
あなたを、子どもを愛したから。
私は、あなたの前から、消えなければならなかった。
そういう掟だったから。
実 ∴
幸子 ごめんなさい。
実 悪いのは、俺だよ。
俺が、酔って、あの時のことを言ったから。
幸子 ∴
実 雪子。
幸子 何。
実 聞いて良いか。
幸子 ∴
実 俺と一緒にいて、幸せだったか。
幸子 幸せだった。

実 良かった。
幸子 ∴
実 雪子。
幸子 何。
実 少し、眠くなってきたよ。
幸子 寝て。
実 起きたら、やっぱりいなくなってるのかな。
幸子 いるよ。
実 そっか。
嬉しいな。
じゃあ、少し眠るよ。
幸子 うん。
実 ∴
幸子 ∴
実 雪子。
幸子 何。
実 ずっと、…愛してる。
幸子 私も。
あなたを、愛してる。
実 ∴
幸子 ∴
茂 ∴

実、眠る

茂 ∴
幸子 ∴
茂 本当に、雪子さん。
幸子 違いますよ。
先輩、私ですよ。
茂 あ、ああ。
でもなんか、
幸子 本当の雪子さん、変な言い方ですけど、本当の雪子さんも、同じ気持ちだったんじゃないかなって思ったら、
茂 憑依したのかと思った。
幸子 すみません。
茂 いや。
∴
多分、最初から分かってたと思うんだ。
分かってて、幸子ちゃんを、雪子さんだつて、そう思つて話してたんだと思う。

幸子 ありがとう。
雪子さん、会いたくないんですかね。
茂 どうだろう。
でも、幸子ちゃんが言ったように、きつと、握みたいなものがあるんじゃないかな。
本当は会いたくて、会いたくてしよろがないんじゃないかな。
幸子 切ないですね。
茂 切ないな。
幸子 ∴
茂 ∴
今日はありがとう。
玄関まで送るよ。
幸子 先書は。
茂 毛布持ってきて掛けてやるよ。
で、起きたら、良い夢見てたのかつて。
良い顔して寝ってたぞ。つて言つてやるよ。
幸子 ∴そうですね。
茂 ∴
幸子 ∴
茂 ありがとう。
幸子 いえ。
それじゃあ。

幸子、茂、退場

s. e. 風の音

実、腕が肘かけから落ちて、だらんとなる

音楽 大橋トリオ

照明、ゆつくりと暗転